

厚生労働科学研究委託費（成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業）

委託業務成果報告（総括）

各種データセットの連携のための基盤構築と国際連携

業務主任者 森 臨太郎 国立成育医療研究センター政策科学研究部・部長

研究要旨

極低出生体重児の発症機序や長期予後改善に資するためにはさまざまな情報（データ）を広く用いて分析することがより効率的かつ効果的である。周産期にかかわるデータセットをマッピングし、それらを統合するデータリンケージの手法を整理して、周産期特異的なデータのリンケージ手法を構築した。早産や低出生体重にかかわる国際的な研究グループと連携のためのネットワークを構築して、国際共同研究に発展する素地を構築した我が国の周産期にかかわるデータセットとして、日本産科婦人科学会の周産期委員会で構築してきたハイリスク妊娠のデータベースがある。また日本未熟児新生児学会のメンバーが中心になって構築してきた総合周産期センターのネットワークによる極低出生体重児のデータベースが存在している。さらに、我が国の出生届や死亡届のデータも利用可能である。こういったデータベースをリンケージするための変数などを整理した。早産に関する研究者が集まって共同で研究をしていく Preterm Birth International Collaborative（PREBIC）というグループの疫学部門に参加し、先進諸国や途上国を含めて、早産や低出生体重に関する国際的な共同研究を行っていくため、プロトコールを作成した。さらに、The International Network for Evaluating Outcomes in Neonates（iNeo）という先進10か国での極低出生体重児の疾病登録を行っているネットワークがあり、我々が日本の代表として参加し、現在研究計画を立てているところである異なるデータセットの連携とさらにその連携を国際的なものにしていくための基盤を構築が進んだ。

研究協力者

森崎菜穂 国立成育医療研究センター政策科学研究部

善に資するためにはさまざまな情報（データ）を広く用いて分析することがより効率的かつ効果的である。本研究では、異なるデータセットの連携とさらにその連携を国際的なものにしていくための基盤を構築することを目的とした。

A. 研究目的

極低出生体重児の発症機序や長期予後改

B. 研究方法

1) 周産期にかかわるデータセットをマッピングし、それらを統合するデータリンケージの手法を整理して、周産期特異的なデータのリンケージ手法を構築した。

2) 早産や低出生体重にかかわる国際的な研究グループと連携のためのネットワークを構築して、国際共同研究に発展する素地を構築した。

(倫理面への配慮)

本研究は二次的に得られる情報で行う研究であり、特別の倫理的配慮は必要としなかった。

C. 研究結果

1) 我が国の周産期にかかわるデータセットとして、日本産科婦人科学会の周産期委員会で構築してきたハイリスク妊娠のデータベースがある。また日本未熟児新生児学会のメンバーが中心になって構築してきた総合周産期センターのネットワークによる極低出生体重児のデータベースが存在している。さらに、我が国の出生届や死亡届のデータも利用可能である。こういったデータベースをリンケージするための変数などを整理した。

2) 早産に関する研究者が集まって共同で研究をしていく PREBIC というグループの疫学部門に参加し、先進諸国や途上国を含めて、早産や低出生体重に関する国際的な共同研究を行っている

ため、プロトコルを作成した。さらに、iNeo という先進10か国での極低出生体重児の疾病登録を行っているネットワークがあり、我々が日本の代表として参加し、現在研究計画を立てているところである。

D. 考察

極低出生体重児の発症機序や長期予後改善に資するためにはさまざまな情報(データ)を広く用いて分析することがより効果的かつ効果的である。異なるデータセットの連携とさらにその連携を国際的なものにしていくためには、データのリンケージや国際研究グループが共同でのプロトコルの作成が有意義であることが認識された。

E. 結論

極低出生体重児の発症機序や長期予後改善に資するためにはさまざまな情報(データ)を広く用いて分析することがより効果的かつ効果的である。異なるデータセットの連携とさらにその連携を国際的なものにしていくための基盤を構築が進んだ。

F. 健康危険情報

(分担研究報告書には記入せずに、総括研究報告書にまとめて記入)

G. 研究発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表

森臨太郎.周産期データリングージによる研究の意義と可能性.第 50 回日本周産期・新生児医学会、2014. 7: 浦安、ワークショップ

森崎菜穂.周産期関連データベースの連結. 第 50 回日本周産期・新生児医学会、2014. 7: 浦安、ワークショップ

H . 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3.その他